

第2回 区ビジョンまちづくり計画策定特別部会 意見一覧

目指す区のすがた名「自然の魅力輝くまち」	
発言者名	取り組みに関する意見
環境教育・自然とのふれあい	
本田委員	<p>小学校での環境学習は、近くに潟や自然があるところは一生懸命だが、早通はない。各小学校で学べるといい。</p> <p>「北区の観光資源の発信に携わる人材を育成～」について、福島潟→直売所→酒造など回遊してもらえるような案内や仕組みづくりなどがあるとよい。</p> <p>本会議での大学生の意見に「福島潟までの交通がない」というのがあった。駅から福島潟までのバスなどできないか。</p>
伊藤委員	<p>学校での環境学習の取り組みを、区役所だよりなどでPRするなど、伝える機会を設ける。</p>
交流人口の拡大	
小日向委員	<p>「福島潟は～食文化も魅力の一つ」とあるが、周辺に楽しめる施設がない。</p>

目指す区のすがた名「未来へ続く活力あるまち」

発言者名	取り組みに関する意見
工業の振興	
皆川(靖)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「新潟東港の活性化に～」とあるが、具体的なイベントなどを行うイメージなのか。 ・売りとなることを基に、イベントや企業誘致を行った方が良い。 ・「国際拠点港湾～機能整備が進められています」とあるが、(整備によって環境など)何か変わったところがあれば宣伝して周知すべき。
前田委員	造成工事を行っているところはどうするつもりか。
斉藤委員	(造成箇所への企業誘致)スケジュールはどうなっているのか。
佐藤委員	二酸化炭素の排出規制などは企業に求めるのか。
前田委員	一概に全て規制すればいい訳ではないので、どうすべきか。
佐藤委員	クルーズ客船利用者にどう北区を観光してもらうか、産業を活性化できないか。
清水(文)委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「これからの新潟を支える基幹産業の育成に努めます」とあるが、具体的に何をするのか。 ・新潟東港の活性化を大に行ってほしい。
斉藤委員	クルーズ客船の利用者に北区のどこを観光してもらうのか。
清水(文)委員	「クルーズ客船の寄港など～」とあるが、観光客が降りてきた時の歓迎の方法が地味。
商業の活性化	
斉藤委員	葛塚市や松浜市はいつまで続けるのか。 移動車などを用いて現代風にしないのか。
佐藤委員	市の魅力を伝えるためにどうするか。 空き店舗を貸します、などをいかに広報していくか。 SNSを活用すべき。
諏訪委員	一般の人の出店できることは、多くの人が来やすくなるので良い。
前田委員	市を活用し、集客につなげたい。

諏訪委員	新発田駅前が寂れてシャッター通りになり悲しい。 北区は寂れてほしくない。
若者との協働によるまちづくり	
斉藤委員	新潟食料農業大学と新潟医療福祉大学が連携して、学生の町としていけるか。
佐藤委員	飲食店などが建てにくい土地。
前田委員	町として出来上がっていくまでは長い道のり。
諏訪委員	移動車両(キッチンカー)などを活用し、土地が使えなくても、飲食物などを提供して若者が楽しめるようにすべき。
前田委員	住んでいるところが活性化する。
清水(文)委員	大学の寮が建ち、平日は食事が出るが、休日はどうするのか。夏は歩いていけるが、冬に歩くのは大変。
農水産業	
本間(藤)委員	高齢化などのため、時期によって人手がほしいときがある。他県では、農業が地方公務員の副業可能になっているところもある。新潟はどうなのか。
斉藤委員	やりたくても儲かる農業が出来ない人達に支援してほしいが、計画はあるのか。
佐藤委員	・他市に勤務している時に「北区のトマトはどこで買えるのか、食べられるのか」と聞かれるが、紹介するのに苦労している。 ・(特産品は)現地に行っても安く食べられない場合があり、悲しい。
前田委員	農協とも連携して行ってほしい。協力農家がいないと話が進まない。
道路の整備・維持管理	
前田委員	・岡方地区の都市計画がない。道路なども何も計画がなく、何も動かないのはどうなのか。 ・工事の進みが遅い。
諏訪委員	・名目所の側道の所は、道路計画が始まって10年経っているのに何も進んでいない。
公共交通の充実	
清水(文)委員 諏訪委員	おらってのバス、デマンド交通をなくさないでほしい。スピード感を持って取り組んでほしい。

目指す区のすがた名「いきいきと心豊かに暮らせるまち」	
発言者名	取り組みに関する意見
健康に暮らせる地域づくりの推進	
佐久間委員 遠藤委員	小さいときから（小中学生）の健康意識の啓発が必要。予防と意識向上に取り組んでほしい。
支え合える地域づくりの推進	
清水(博)委員	一人暮らしの高齢者は、具合が悪くてもすぐに病院に行かない。一歩踏み出せるよう民生委員などから地域の状況をつかんでいただき、支援してあげられる仕組みをつくってほしい。
本間(啓)委員	必要な人に情報が届いていないことが多い。地域のつながりを強くすることが必要。
	生きがいをつくるために自主的に取り組めるものがあるといい。自主的に取り組めるという視点が大切。
遠藤委員	老人になる少し前の世代がどういうふうに関わっていくか難しい。
佐久間委員	新しく来た人は、前から住んでいる人たちの輪に入りにくい。地域のコミュニティセンターや自治会館などで行うよりも、北区全体でイベントや講座をやる方が行きやすいのではないか。
中嶋委員	コロナ前は、民生委員の活動に中学生も一緒に体験する機会があり、大変喜ばれた。これからは直接会わなくてもお年寄りと交流する機会をつくれるよう工夫してほしい。（お手紙、手作りプレゼントなど）子どもたちのやりがいと高齢者の元気づけでお互いにいい関係になる。
子育て支援の環境づくりの推進	
佐久間委員	乳幼児対象の講座などが多い。中高生の親・子に対する取り組みを多く行ってほしい。相談先があまりない。思春期の親子へのサポート窓口がほしい。

遠藤委員	「ななめの関係」地域の人、近所のおじさんおばさんなどとの関係が子育てには必要。親や先生以外から認めてもらえることは子どもにとってすごく大切。
地域とともにある学校づくりの推進	
遠藤委員	取り組み二つ目の「少子化問題」が唐突すぎる。文章を再検討したほうがいい。
清水(博)委員	コミュニティスクールの内容がよくわからない。もう少し丁寧な説明が必要ではないか。
佐久間委員	コミュニティスクールで設置される運営協議会は、保護者が意見を言いやすいようなメンバー構成にしてほしい。
文化芸術・スポーツ活動の活性化	
樺山委員	コロナ禍で人とのつながりが難しい。今後どうやってつながりを作っていくか、課題だと思う。
コミュニティ活動の推進	
本間(啓)委員	取り組みの「人材の育成」とは具体的に何をするのかわかりにくい。
区自治協議会との協働の推進	
佐久間委員	区自治協議会のひとつめの取り組みの「深化する」の言葉がわかりにくい。
	自治協議会の全体会は、非常に意見を言いにくい。意見を言いやすい仕組みづくりが必要。
清水(博)委員	行政の話を難しい言葉で話されてもわからない。かみ砕いて言ってほしい。一方的な提案、報告型になりがち。

目指す区のすがた名「安心安全で住みよいまち」	
発言者名	取り組みに関する意見
交通安全の推進	
有田委員 皆川(英)委員 山賀委員 五十嵐委員	交通安全施設（歩道、柵、信号、白線、カーブミラー）などの修繕・拡充をしていくことが重要
鶴巻委員	自転車に乗っている高齢者で、停止線で止まらない人が多い。小学生だけでなく、幅広い年代を対象に自転車教室をやってほしい。
五十嵐委員	交通安全教室は「高齢者を含め」実施していくという表現でいいのではないか。
寺山委員	交通安全は、啓発も大事だが、現地での指導をしていくことも重要。
防犯対策	
鶴巻委員 皆川(英)委員 寺山委員	パトロールをする人が高齢化している。若い人も参加する仕組みづくりが必要。消防団などからも協力してもらいパトロールをしてはどうか。昼間や夕方に限らず、夜間の見回りも行った方がいい。
寺山委員 五十嵐委員 山賀委員	・犯罪危険箇所対策の項目を入れた方がいい。過去の事件を受けて登下校の危険箇所を総点検したが、その後の対応が進んでいない。防犯カメラの設置などを進めていくべき。
一人一人が災害に備える地域づくり	
皆川(英)委員 寺山委員 山賀委員	・災害警報一つをとっても、地域ごとで取るべき行動が異なる。ハザードマップには地域ごとの災害予測が載っているが、自治会ごとなど、もう少し細かい単位での被害予測・対応などについて整理していく必要がある。地域ごとで防災講習会などの開催状況に開きがある。実施していない地域にも行政が積極的にかかわっていった方がよいのではないか。
災害時に助け合える仕組みづくり	
寺山委員	・現実に沿った避難訓練が大事。

五十嵐委員	<ul style="list-style-type: none"> 要支援者名簿に載っていないが支援が必要な人もいる。個人情報の兼ね合いなどから、そういった人は自治会長しか把握していない。そういった人の支援も重要。
有田委員 鶴巻委員	<p>防災士が高齢化している。高齢の防災士だけでは、現在の災害に対応しきれない。広報などを通して、防災士の育成に力を入れた方がいい。せっかく防災士になっても、活躍の場がなくなってもったいない。</p>
雨に強いまちづくり	
全員	案の通りでよい。